

# スマート農業イノベーション推進会議 第2回技術評価に関する作業部会 会議要旨

開催日時 及び場所	日時：2026年3月26日（木）10:00～12:00 場所：オンライン
出席者 (敬称略)	浅井雄一郎（（株）浅井農園）、梅本雅（（株）ファーム・マネージメント・サポート）、小野泰裕（農林中央金庫）、戸田世嗣（熊本県農林水産部生産局農業技術課）、宮川英幸（岩手県農林水産部農業普及技術課）、宮嶋清司（（株）日本政策金融公庫）、三輪泰史（（株）日本総合研究所）
議事概要	<p>第1回の議論を踏まえて、スマート農業技術の導入判断に資する情報発信において重要な視点を、 <b>（1）導入判断に必要な情報、（2）情報発信の仕方、（3）必要な情報の収集方法に分けてまとめる</b>とともに、<b>既存の取組を整理</b>（別紙参照）。 第2回では、これらを踏まえて、<b>更に踏み込んで情報発信における課題を議論し、IPCSAとしての対応方向を検討</b>。</p> <p><b>1 情報発信における課題</b> <b>（情報の一元化）</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>自治体に事例集が散在している状態。<b>一元的に情報を収集できる場所</b>があると農業者も活用しやすい。</li><li>金融機関や普及関係者が、個々の農業者の対応をする際、<b>情報がある程度一元化</b>されていると活用しやすい。農水省で発信している情報も含めて<b>一か所にまとまっているサイト</b>があると農業者にも主体的に情報収集してもらいやすくなる。</li></ul> <p><b>（様式の統一）</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li><b>共通の様式、視点で経営データを評価できる環境</b>は、スマート農業を広げていくために必要。</li><li><b>財務に関する指標と営農に関する指標</b>の両方が<b>定量的に尺度を揃えて見られる情報</b>があるとよい。</li></ul> <p><b>（“失敗”事例等の整理）</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>個別には“失敗”であった事例は、次の<b>経営判断に役立つ</b>ような内容とすべき。例えば、ドローンにバッテリーが入っていなかった等の操作上の失敗事例ではなく、ロボット田植え機を導入した際に人手とのバランスや作業全体の体制等が該当。</li><li>届けば役立つ事例情報は、スマ農実証ポータルサイトなどに<b>情報の素材としては既にたくさんあるが、発信の仕方の工夫</b>が必要。</li></ul> <p><b>（効果的な発信の方法）</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>機械や技術の有無などの個別情報は、農業者に直接発信してもよいが、技術の使い方や組合せ、費用対効果等の考察といった<b>データや情報の解釈が必要な場合は、普及関係者等がサポート</b>して、農業者にわかりやすく情報提供するような二重構造が有効ではないか。</li><li>金融機関は、普及関係者のように現場指導や解説はできないが、農業者とのやり取りを通じて、自身の経営の中でどのように技術を活用していくかを考える重要性を伝え、機運醸成を図ることができる。一方、<b>一般的な投資効果データや一部の成功者やメーカーの情報だけでは、本当にその効果が出せるのか不明</b>であり、融資の判断ができない。<b>農業者自身がどこまでしっかり考えているかも融資での大事なポイント</b>。</li></ul>

# スマート農業イノベーション推進会議 第2回技術評価に関する作業部会 会議要旨

## 議事概要

### 2 IPCSAにおける対応方向

#### (情報の一元化とその位置づけ)

- ・ IPCSAウェブサイトは、農水省や農研機構で発信している情報も含めて、幅広い情報を発信することが必要。
- ・ 県等自治体では主に「意欲醸成」側の層に向けて、県内の事例を中心に発信している。IPCSAでは他県の事例と比較できるような全国的事例の発信を期待。入口は、自治体のサイト等情報収集し、身近に情報のない技術や取組をIPCSAで探すという流れがよいのではないか。

#### (使いやすさ・検索性の改善)

- ・ IPCSAウェブサイトは、ユーザーの使いやすさを意識した改善が必要。情報が多くなると必要な情報を入手しにくくなるため、見に来た動機を意識した誘導や検索性の改善も検討する必要。
- ・ 農業者は、経営形態や栽培作物が異なる情報は参考にしにくい。例えば、規模・品目・品種・地域性・経営戦略が近い農業者、成功・失敗、技術活用状況などのような要件について、フィルタリング・レコメンドできる検索機能があるとよい。また、品質向上や病気への対応、収量向上など課題解決のヒントを見つけたいなどの目的から調べていく場合もある。どちらからでも検索できるようにすべき。
- ・ 農業以外も含めて類似サイトを参考にして、IPCSAならではの情報発信をすることが必要。

#### (共通様式等の作成)

- ・ 融資判断も含め、導入における注意点・チェックポイントを整理することも重要。技術導入が「上手くいっているか」について、行政や農業者自身など誰が、どのような評価軸で整理するのかについてもIPCSAの検討課題としてもよいのではないか。
- ・ 各取組主体がそれぞれの基準でデータ測定・管理すると比較できないため、IPCSAにおいて同一基準の作成に向けた検討を期待。
- ・ フォーマットについて、統一できる部分は限られていると思うが、最低限の統一でも情報が十分整理される。

#### (ターゲット)

- ・ 情報の受け手について、初心者・玄人の2段階での整理が適当なのも含め、引き続き、農業者目線、情報提供者目線で精査していくことが必要。
- ・ 全ての層に対して広く情報発信することは現実的に難しいが、IPCSA会員のネットワークを活用した発信が効果的ではないか。
- ・ スマート農業に対してやる気があり、努力しているが、成果が出ていない方への情報発信を優先すべきではないか。

#### (発信内容、収集する仕組み)

- ・ 技術情報は、客観的・ファクトベースで定量的に発信することが重要。その上で、当事者が成功・失敗をどのように判断しているかも付加情報として示していくことが必要。
- ・ IPCSAに情報が自然に集まる仕組みと、集まった情報の確からしさを一定程度自動で判定する仕組みの検討にも期待。
- ・ 無料で気軽に使える生成AIが発達してきており、IPCSAウェブサイト内外での生成AIの利用も念頭において、情報の公開・共有範囲の方針の検討をする必要がある。

## (1) 導入判断に必要な情報

- ① 技術性能に関する情報に加え、費用対効果（初期投資、ランニングコスト、投資回収期間）や導入効果が現れる時期とその程度に関する情報など、経営判断が可能な情報。
- ② 「一般化」や「平均値化」した情報に加え、詳細な特徴まで把握できる「ケース化（事例化）」した情報。
- ③ 営農類型、圃場規模、土壌条件（物理性、化学性、生物性）、作業者の熟練度、作業頻度・タイミング等の詳細な条件がわかる情報（メタ情報等）。
- ④ 経営背景、経営方針、使用条件等の数値化できない情報。
- ⑤ 優良な成果事例に加え、導入時のつまずきなど失敗事例。
- ⑥ 業界の構造転換の状況など、将来経営の想像が可能な情報。

## (2) 情報発信の仕方

- ① 営農類型や規模、スマート農業技術に対する関心度合い等、受け手\*の状況に応じた発信する。
- ② 技術の性能・効果等を「正しく」伝える。
- ③ スマート農業に適した生産基盤の構造変革により得られる効果の有無を併せて伝える。
- ④ 普及指導員や営農指導員、JA、金融機関、先行農業者等、受け手との信頼関係を構築している主体から伝える。
- ⑤ スマート農業機械等のハード面に加え、営農管理ソフトやデータ活用等のソフト面も対象にする。
- ⑥ 成功事例だけでなく、失敗事例も発信する。
- ⑦ 費用曲線、キャッシュフロー分析、経営シミュレーション等、技術の種類に応じて、評価手法を使い分けて発信する。  
（例：ドローンについては、費用曲線で効果を示すことが可能。園芸施設等の設備投資については、投資に対するキャッシュフロー分析が適当等）

## (3) 必要な情報の収集方法

- ① 国や自治体等が有する既存の情報・ツール等を有効活用（公開制約があるデータ等については内部活用）し、不足する部分を特定して収集する。
- ② 農業者自身の農業経営の現状の可視化につながる情報を収集する。
- ③ 費用対効果のデータに加えて、圃場条件や作業実態等のメタ情報まで紐づけて収集する。
- ④ 成功事例に加えて、失敗事例も収集する。
- ⑤ 他地域に散在する情報を幅広く、一か所でみられるように収集する。
- ⑥ 協力者へのインセンティブを示し、効果的・効率的に情報を収集する。
- ⑦ 農業者の自発的に情報収集を促進するため、農業者をはじめとする関係者からボトムアップ型で現場情報が蓄積される仕組みを構築する。

**\*受け手は、どの技術導入の段階にあっても、自らの経営条件・方針を明確に意識する必要がある。**

# スマート農業技術に関する既存の情報発信の取組

IPCSAの重要達成目標	スマート農業との関わり	情報の量・詳細	情報の内容 (必要な要素)	既存の情報発信の取組(点線囲みは限定公表)					
				スマ農実証プロ (農水省・農研機構)	自治体	企業 (メーカー等)	金融機関	その他	IPCSA (現時点)
スマート農業技術の導入 (底上げ)	意欲醸成 ↑	少 (概略) ↑	<ul style="list-style-type: none"> <li>●機能とその効果について直感的に理解できるもの</li> <li>●一般的な活用事例 【必要な要素】 ・収益に関する数値情報</li> <li>●具体的な個別の活用事例 【必要な要素】※ ・経営概況(経営面積、労働力構成等) ・収支構造、費用対効果(導入・ランニングコスト、回収期間、労働時間等) ・活用条件(必要規模、下限面積等) ・導入の経緯、経営背景・方針 ・失敗事例・要因</li> </ul>	REAL VOICE (動画) ↑ ↓ 技術導入成功のノウハウ集 ↑ ↓ 技術導入手引書 ↑ ↓ 代表的な地区の経営分析 ↑ ↓ 農業経営計画策定支援システム(水稻)	地域の活用事例集 ↑ ↓ 簡易的なシミュレーションツール ↑ ↓ 地域での経営指標	製品情報 ↑ ↓	融資等活用事例 ↑ ↓	農業者による個人動画配信など ↑ ↓	コラム・動画 ↑ ↓ 事例調査 ↑ ↓
生産性の更なる向上・高度化	経営追及 (トップランナー) ↓	多 (詳細) ↓	<ul style="list-style-type: none"> <li>●機能とその効果について詳細を把握できるもの</li> <li>●具体的な個別の活用事例 【必要な要素】 ※に加え、自身の経営や栽培状況との詳細な比較に必要なメタ情報 ・気象情報 ・圃場条件 ・土壌状態(物理性・化学性・生物性) ・作業の内容、頻度、タイミング ・作業者の熟練度 等</li> <li>●業界構造の変革の可能性など農業以外の情報</li> </ul>	農業経営計画策定支援システム(水稻) ↑ ↓					